

アカデミーヒルズ新プログラム 「日本元気塾」2009年6月開講

テンションが下がりっぱなしの日本に喝(活!)を入れる『日本元気塾』。激動の時代を切り開く風土をつくろうと、いよいよ6月19日に開講します。ここは形式知を伝えるスクールではありません。講師やゲストと想いや志という暗黙知を共有し、参加者自らが「元気」を創り出す塾です。元気印の米倉誠一郎塾長と講師によるコンセプト会議の一部を紹介いたします。

日本元気塾 塾長：米倉 誠一郎 [一橋大学イノベーション研究センター長・教授]

講師：高島 郁夫 [株式会社バルス代表取締役社長]

講師：藤巻 幸夫 [株式会社フジマキ・ジャパン代表取締役副社長]

米倉 今は、明治維新や戦後と並ぶほど、ありとあらゆるもの
が変わろうとしている。だからこそ、新しい時代を切り開く人間
が必要です。幕末、吉田松陰が松下村塾を開き、志を受け継
いだ若者たちが明治維新を担ったように、「**想いや志を伝える
場をつくろう、暗黙知で感応し合えるような場をつくろう**」
と、『日本元気塾』を立ち上げました。今日は想いを共有する高
島さんや藤巻君と、この塾で伝えたい想いを自由に語り合いま
しょう。

高島 僕は「**スタイルがビジネスになる**」というメッセージを
伝えたい。ビジネスもビジネスモデルもパラダイムシフトしてい
ます。「今」を肌で感じられるようなフィールドワークや参考事
例を入れながら、**頭と身体両方で「感じる、考える」授業を
したい**。長く続けることで文化が
生まれることや、ビジネスには健
全な精神が不可欠なことも伝え
たいですね。

米倉 いいですね。**アウトプット
型の授業**が一番吸収できる。事
例は、旬なゲストをずらっと並べて
超ベタでいきましょう(笑)。クロー
ズな場だから凄い人たちを呼べる
し、「**今だけ、ここだけ、あなただ
け**」に**価値がある**。皆さんの人脈
を使って自由に授業を進めなが
ら、時々横軸も通したり、オープン
セミナーを開きましょう。

藤巻 僕のまわりにも、「**自分ブラ**

ンド」をもった、底抜けに明るい元気人間がたくさんいますか
ら、ここに引っ張ってきますよ。精神論もするけど、塾で考えたこ
とを実地で試す場もつくる。**一緒に考え、行動することで人と
人がつながる場を創りたい**。塾名のように思いっきりベタで
(笑)、わくわくするような場をつくり、ここからムーブメントを起
こしましょう。

高島 最近、「**志を持つ人**」が少なくなっていますよね。恋愛
だって「好きになろう」とする熱い志がないとできない(笑)。恋
愛もしない、お酒も飲まない、何にも熱くならない。これでは人
生、つまらない。

米倉 今の日本社会は選択肢が少ない。志や夢も持ちにく
い。だから、皆、醒めている。でも、ちょっと心に火をつければめ



左から 藤巻幸夫氏 米倉誠一郎氏 高島郁夫氏



らめらと燃え上がる人もいます。**ノウハウではなく、ノウフー (know-who) が大事。**人生にはいろいろな選択肢があるんだぞ、ということを見せて背中を押してください。**ひとりひとりが元気でイノベティブでなければ、日本が元気になれません。**

藤巻 サラリーマンだって「俺はこの会社の社長になるぞ!」と、20代で宣言するくらいのけたたましさがほしい。

米倉 そうそう、資格をとるより、その方がずっと大事。この間、インドのIT企業を訪問しましたが、大学のキャンパスのようなオフィスで半分学びながら働いている。皆、目が輝いている。職場に笑顔がある。そんな勢いと笑顔を日本に取り戻したいな。

藤巻 これからは過去の成功体験が通じない時代。若い世代や女性ももっと活躍するチャンスがあるはず。学歴がなくても成功している人や、仕事も人生も楽しんでいる人たちと時空を共有する体験を通して、皆の魂を揺さぶりたいですね。

米倉 入塾試験も型破りなのを考えましょう。

藤巻 いいですね。**主役はやはり人間。誰が話すのか、どんな人が参加しているのかがクオリティ。**僕の授業はいろいろなタイプの人に参加してもらいたい。地方自治体や企業の人事部の人にも参加してほしい。聞くだけでなく、どんどん討論に参加してくれる人を求めます。

高島 僕の授業では「あ、うん」の関係をつくりたい。固定概念を外して、**いろいろな問題を「人ごと」じゃなく、「自分ごと」として捉えられる人、求めます。**

藤巻 「自分ごと」っていい言葉ですね。縦社会に横糸を張るキーワードだなあ。

米倉 **「心に灯を灯す、日本を変える」**という目的を共有しながら、各々やりたいことに自由に挑戦しましょう。僕も**「世界を**

見る、長いものに巻かれるな」というメッセージを発しながら、イノベーション(革新)の大切さを伝え続けます。ここを卒業した人たちが、「僕は日本元気塾の門下生だ」と、胸を張ってまわりに語れるような塾にしましょう。それを聞いた人が、「だったら、僕も行きたいな」と言うような塾にね。

高島 同感です。金沢の人たちは自分たちの文化を自慢する。その「気持ち」が文化を創っている。

米倉 その「気持ち」がとても大事。僕らもここから新しい文化をつくりましょう。「いいか、日本元気塾は俺たちが始めたんだぞ」って、自慢しまくれるようなのを(笑)。



日本元氣塾とは

志を伝える、日本元氣塾

知識には言葉にできる「形式知」と、言葉にできない「暗黙知」があります。日本元氣塾は「暗黙知」を経験する場です。

イノベーションとは、言葉ではまだ表現できない全く新しい価値観を生み出すこと。だから、一緒に物事を作り上げていく中で共有される連帯感、使命感、高揚感が、未知の領域を創造する鍵になります。日本元氣塾は「暗黙知」、つまり、日本を元気にするという高島郁夫、藤巻幸夫、そして米倉誠一郎の講師陣たちと想いや志とともに学び・行動することによって共有しようという試みです。自分自身を変革する、フロンティアを切り拓く、そういう気持ちに火をつけ、一步を踏み出す勇気と実行力のある個人を追求していきたいと思います。

POINT 1

カリキュラムのない学校

「いまだけ、ここだけ、あなただけ」が元氣塾の価値です。その場に居ないと、どんな話をするのか、何が起こるか分からない。教育目標や計画表といったカリキュラムを作らないのが元氣塾です。

POINT 2

濃密な人的ネットワークの場

元氣塾はノウハウではなくノウフー(know-who)の場。講師と塾生が様々なアクティビティを通して、濃密で豊かな人的ネットワークを作り上げていく場でもあります。

POINT 3

アウトプット型のアクティビティ

実際に手を動かして新たな提案を試み、体当たりで伝えていく。卒塾時に発表するアウトプットを目標とするため、そこに至る活動形態は様々。共有によって多くの知識や技術も習得できると考えます。

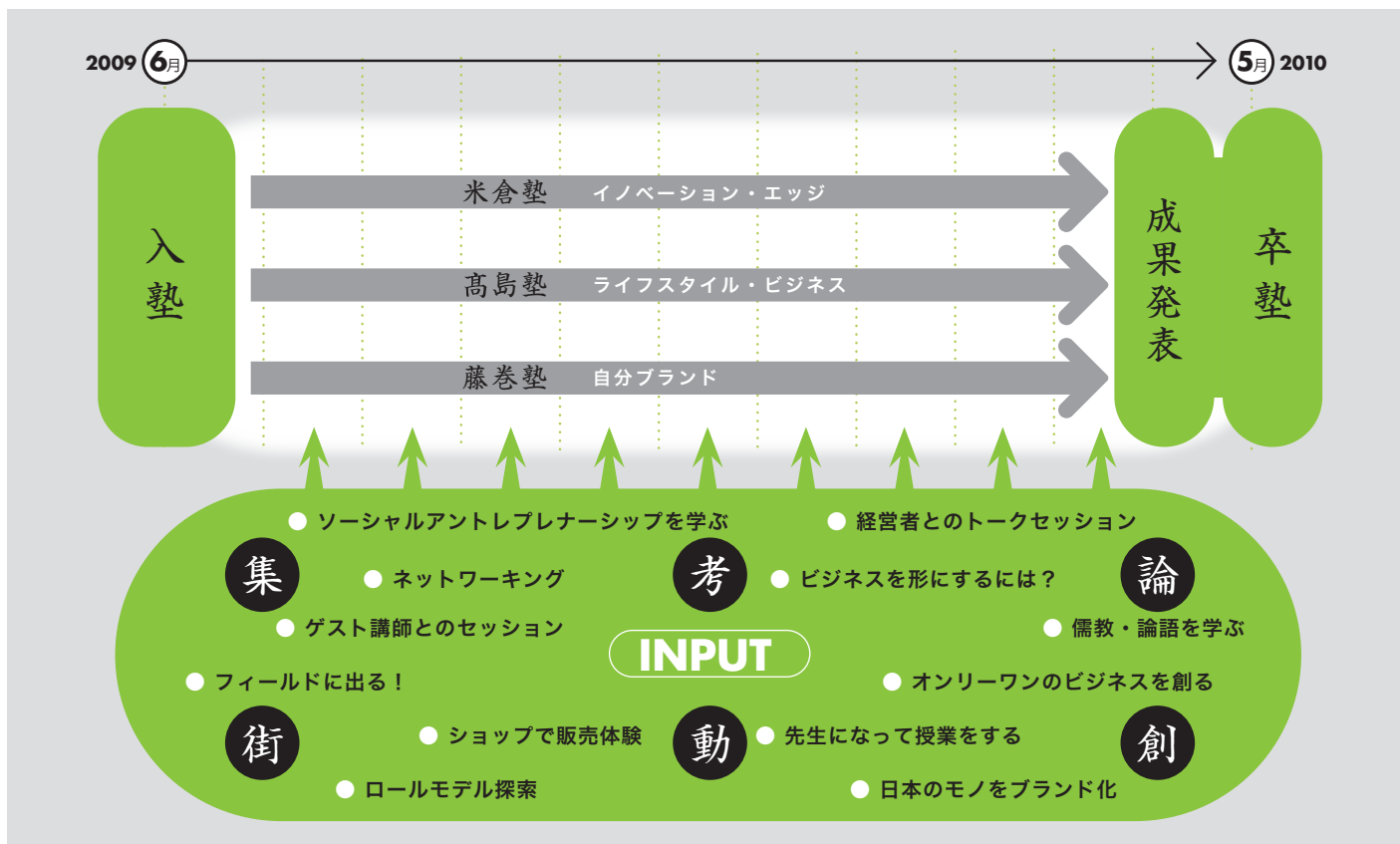
POINT 4

自由と規律を重視する

言葉にならない新たな価値観を創出するために、講師や塾生が垣根を越えたインタラクティブな関係でなければならないと考えます。元氣塾は自由であると同時に、自律的で自立した個人を追求します。

日本元氣塾の受講システム

- ・ 塾生は、「米倉塾」「高島塾」「藤巻塾」の中からいずれか1つの塾に所属し、1年間通して塾の課題に取り組みます。
- ・ 講師は、塾生が新たな視点、視座の獲得につながるような様々なアクティビティを開催します。
- ・ 講師やゲストによる講義、ディスカッション、ブレインストーミング、フィールドワークなど刺激的なインプットを用意しています。課題制作において必要な知識やスキル、あるいはビジネスプランの組み立て方など必要に応じてティーチングアシスタントのアドバイスを受けることも可能です。
- ・ 塾生が自主的に課題に取り組むことができるよう、グループ討議や制作の拠点としてアカデミーヒルズ 六本木ライブラリーを利用することができます。
- ・ 塾生は六本木ライブラリー コミュニティメンバーと同等の資格を有し、メンバーを対象にしたセミナーや講座への優待を受けることができ、メンバー同士の人的交流も可能です。
- ・ 卒塾時に1年間の成果をまとめ、発表します。



日本元氣塾 講師



米倉 誠一郎

米倉塾

イノベーション
エッジ

座学、事例研究、情報の
アウトプットを通じて、
イノベティブな発想と
行動力を学びあう。



高島 郁夫

高島塾

ライフスタイル
ビジネス

スタイルがビジネスになる。
人、商品、フィールドワークなどから、
「いま」を頭と体の両方で、
感じる、考える。



藤巻 幸夫

藤巻塾

自分ブランド

顧客に支持されるブランドを
どう確立するか。
現場力、人間力、創造力を養い、
創造的活動のプロセスを
リアルに体験する

米倉塾

講師

米倉 誠一郎

【一橋大学イノベーションセンター長・教授】

テーマ

イノベーション・エッジの提案

イノベティブな発想と行動力を、座学、事例研究、情報のアウトプットを通じて学びあいます。イノベーションの遂行にあたって感性は大事ですが、モーツァルトが楽譜を読めたように基礎的な知識も必要です。また、実際にイノベーションを遂行した人や企業を追体験あるいはシミュレーションする事例研究（ケーススタディ）も行いたいと思っています。しかし、この塾の最大のテーマは実際に情報を発信すること、すなわちアウトプットすることにあります。そして、塾における学びの行為すなわちインプット・プロセスは、全てこのアウトプットのためにあるということです。ここでいうアウトプットには、実際の経営者を前にした事例分析のプレゼンテーションと対話、高校生あるいは大学生に対して行う授業、さらには国内外の社会企業やNPOでの実践活動等が含まれています。

高島塾

講師

高島 郁夫

【株式会社ハルス代表取締役社長】

テーマ

ライフスタイル・ビジネスの提案～生活とデザインを結ぶ新しいビジネスの可能性を探る

高島塾のテーマは「スタイルがビジネスになる」

「今」を肌で感じられるような人、話題の商品を紹介し、フィールドワークを通じて頭と体の両方で「感じる、考える」塾を目指します。スタイルやデザインをビジネスにするには、どれだけ人と会ったか、どれだけアンテナを張って情報を収集したかが重要で、先入観の無い「音無しの構え」で接することで、新しいものが吸収できると考えます。ゲストと話をしたり共に行動する中で、物の見方や捉え方を体験して欲しい。

1年間の活動を通して机上の理論とリアルな結果が検証できる様、商品提案やライフスタイルビジネスの実践を検討される方には実店舗での販売動向研究やプロの視点でのコメントもしたいと思っています。スタイルやデザインをどうサービスや商品に転換し、ビジネスを構築するか、そのプロセスをリアルに経験してほしい。

ビジネスには健全な精神が不可欠。リーダーに求められる見識や人間としての魅力についても考えます。自分の事業を通して何に貢献するのか？ いろんな問題を「人ごと」ではなく、「自分ごと」として捉える人に集まって欲しいと思います。

藤巻 塾

講師

藤巻 幸夫

[フジマキ・ジャパン代表取締役副社長]

テーマ

Made for Japan～顧客に支持されるブランドをどう確立するか

1年間の活動を通して、伝えたいのは「現場力」「人間力」「創造力」。

藤巻塾では、まだ若いけれど知る人ぞ知る面白いゲストに迎え、彼らが「顔が見えて、生活が見えて、物語があって心のこもった仕事」をしているということをリアルに感じてほしい。

一方で是非、精神論に取り組み、人間の本質を考えてみたい。『論語』、『言志四録』(佐藤一斎)、『修養』(新渡戸稲造)は推薦図書だ。

そして、一緒に街に出て、フィールドワークをしたい。いろいろな店に行つてモノの見方を教えたり、面白いモノを探したりする。自分でブランド立ち上げたいと思っている塾生とは一緒に商品を考えていし、僕も全国を巡っているから一緒に素材を探しにいくのもいい。品川駅に2月オープンする「Rails(レイルズ)藤巻商店」で対面販売することもいい経験になると思う。自分の作ったものがお客さんに喜ばれたり、全く売れなかったりするのを目の前で見ると。創造的活動のプロセスが体験できるリアリティのある実地型の塾を目指す。

組織に頼らず自分ブランドで生きるとはどういうことなのか。そんなことを語り明かす場にしたい。スーパー大企業に勤めている人から一人で仕事をしている人まで、様々な立場や職業の人たちと共に考え、行動することで人と人がつながる場を作りたいので、是非塾に飛び込んできてほしい。

募集要項

塾 長	米倉 誠一郎 (一橋大学イノベーション研究センター長・教授)
講 師	高島 郁夫 (株式会社パルス代表取締役社長) 藤巻 幸夫 (株式会社フジマキ・ジャパン代表取締役副社長)
期 間	1年間[2009年6月～2010年5月] ※入塾式は6月19日(金)19:00～
会 場	アカデミーヒルズ(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49階) ※フィールドワーク等プログラムによって会場は適宜変更いたします。
応募資格	開塾期間を通して活動に積極的に取り組もうという意欲あふれる満20歳以上の方
定 員	100名
受 講 料	月額18,900円 / 年一括支払い210,000円 (いずれも税込み)

※ 塾生はグループ討議や制作の拠点として六本木ライブラリー コミュニティメンバーと同等の資格を有し、メンバー向けのセミナーへの参加やメンバーとの人的交流も可能です。

お申し込み方法

日本元気塾のWEBサイト(<http://www.academyhills.com/genki>)の入塾お申し込みフォームからご応募ください。

締切:2009年5月15日(金) 18:00

アカデミーヒルズ <http://www.academyhills.com>

森ビルは「世界的文化都心の創造」をビジョンに、街づくりに「都市を創る(ハード面)」と「都市を育む(ソフト面)」の両面から取り組んでいます。「都市を育む」取り組みの一つとして、森ビルが運営するアカデミーヒルズ(理事長 竹中平蔵 慶應義塾大学教授)は“自律的に自立する個人の支援”をミッションに、「Roppongi BIZ」「アーテリジェントスクール」などを運営する「スクール事業」、会員制図書館を運営する「ライブラリー事業」、貸しホール・貸会議室を運営する「フォーラム事業」の3つの機能を軸に、都市生活者に対して「知的活動の場」と「教育の機会」を提供しております。

ご取材、見学に関しての詳細はお問い合わせください。

森ビル株式会社 アカデミーヒルズ事業部 広報担当 深町 友子

TEL: 03-6406-6649 FAX: 03-6406-9350

MAIL: academyhills-PR@mori.co.jp URL: www.academyhills.com